

岡山藩士古家氏の奉公書（続）

吉原健一郎

ここに紹介する史料は、古家有信氏の所蔵にかかわる「御奉公書控帳」である。古家氏の奉公書に關しては、すでに「岡山藩士古家氏の奉公書」（成城大学大学院文学研究科『日本常民文化紀要』第十輯、昭和五十九年）として紹介したことがあり、今回はその続編にあたるものである。したがって、古家氏の系図等については、上記紹介史料の解説を参照していただきたい。

今回紹介する史料は、さきの史料の続編であり、「御奉公書控帳」の表題のとおり、古家氏が折にふれて提出した奉公書の控をまとめたものである。内容的にも、さきの史料に継続している。そのはじめは、文化元年（一八〇四）であり、系図によれば古家氏六代目の巳之助にはじまり、明治三年（一八八〇）の七代目清作にいたる二代の文書の写が収められている。詳細は省略するが、巳之助の書上

が十通、清作の書上が四通となっている。

巳之助(平左衛門)の書上は、一通ごとの分量も少なく、特記事項の存在しない年も多く含まれている。天保元年(一八三〇)に平左衛門と改名しているが、総じて番方の武士として職務も無難に経過している。書上は安政元年(一八五四)提出で終わっているが、このとき平左衛門は七十歳の高齢であった。

これに対し、同年からの清作の書上は、幕末の激動期を反映して、次第に詳細になっていく。とくに清作の三通目の書上は慶応元年(一八六五)正月にはじまり、明治二年暮に終るもので、幕末維新期の岡山藩兵の動きを如実に示す史料となっている。清作は戊辰戦争にも従軍しており、奥羽戦争をはじめ、北海道へ転戦し五稜郭攻撃にも参加した。明治二年七月には池田鞞負より「昨年来箱館出張長々在陣僻地艱難苦勞」として藩主からの慰撫があったことを記している。この奉公書によって激動期の岡山藩兵の動向を詳細に知ることができるといっても、非常に貴重な史料といえるだろう。

最後に、本史料の公開を快諾された古家有信氏の御好意に深く感謝する次第である。

（表紙）

「御奉公書控帳」

古家

父平左衛門御奉公書ハ別帳ニ有之
是より巳之介御奉公書

御奉公之品書上

文化元甲子年十二月晦日迄之儀は小川九郎兵衛

迄父平左衛門書上申候

一、文化甲子年御掃城被遊候已後、御番御供父平

左衛門相勤申候

一、同年私儀御勘定方御雇相務申候

一、同年閏八月十六日父平左衛門御代官御用被_ニ仰

付_ニ相勤申候

一、同三丙寅年父平左衛門御代官御用直勤被_ニ仰付_ニ

相務申候

一、同年私儀御勘定方御雇相勤申候

一、同年十二月廿二日父平左衛門御代官御用御免

被_レ成候

一、同四丁卯年父平左衛門義病氣ニ付、正月十六日

御小性組御断申上、同十七日父平左衛門六十一歳

ニテ病死仕候

一、同年三月七日亡父平左衛門跡目御切米六拾俵四

人御扶持無_ニ相違_ニ被_レ下

御城代御中小性被_ニ仰付_ニ候旨、浅野瀨兵衛宅ニテ

同人申渡候

一、同年五月廿五日繼目之御礼鳥目ニテ申上候

一、同五戊辰年三月廿四日於_ニ御評定所_ニ御黒印頂戴

仕候

一、同六己巳年書上候品無_ニ御座_ニ候

私行年二十五歳ニ罷成申候

已上

古家平左衛門

書判
印判

文化六己巳年十二月廿九日

竹内武右衛門殿

須加小八郎殿

御奉公之品書上

文化己巳年十二月廿九日迄之儀は竹内武右衛門

須加小八郎書上申候

一、文化庚午年三月二日御隠居様御祝年ニ付、御祈

禱御礼指上候為_ニ御祝儀_ニ御目錄金子式百疋頂戴仕

候

一、同八辛未年 一、同九壬申年

津田 小源太殿

一、同十癸酉年 一、同十一甲戌年

水原源右衛門殿

右年数之内書上候品無御座

私行年三十歳ニ罷成申候

御奉公之品書上

已上

古家巳之介

書判
印判

文化十一甲戌年十二月晦日

生駒弥五右衛門殿

一、同五壬午年 一、同六癸未年

津田 小源 太殿

右年数之内御奉公之筋書上候品無御座候

已上

古家巳之介

書判
印判

御奉公之品書上

文化十一甲戌年十二月晦日迄之儀は生駒弥五右

衛門津田小源太迄書上申候

文政七甲申年十二月晦日

一、文化十二乙亥年 一、同十三丙子年

水原 源右衛門殿

一、同十四丁丑年 一、文政元戊寅年

滝波与惣左衛門殿

一、同二己卯年

御奉公之品書上

右年数之内御奉公之筋書上候品無御座候

私行年三十五歳ニ罷成申候

文政七甲申年十二月晦日迄之儀は前書上申候

已上

古家巳之介

書判
印判

文政二己卯年十二月廿九日

一、同年十一月廿日改御札干肴ヲ以申上候

一、同年御番御供相務申候

一、同九丙戌年三月御発駕被遊候已後御留守御番相勤申候

一、同十丁亥年五月御帰城被遊候已後御番御供相勤申候

一、同十一戊子年九月御発駕被遊候御留守御番相務申候

一、同十二己丑年正月元日信濃守様御登城ニ付、御次兒小性助相務申候

一、同年五月御帰城被遊已後御番御供相務申候
私行年四十五歳罷成申候

已上

古家巳之介

書判
印判

文政十二己丑年十二月晦日

今枝忠左衛門殿

山脇兵作殿

森川助左衛門殿

御奉公之旨品書上

文政十二己丑年十二月晦日迄之儀は前々書上申候

一、天保元庚寅年当年頭より平左衛門と変名仕候

後一、同年御番御供相勤申候、同八月御発駕被遊候已

後御留守御番相勤申候

前一、同年閏三月十四日御代替御書替御黒印頂戴仕候

一、同二辛卯年御留守御番相勤申候、同五月御帰城被遊候已後御番御供相務申候

一、同年十二月八日来辰ノ年御参府御供被ニ仰付ニ候
一、同三壬辰年御番御供相勤申候

一、同年二月十一日御道中播磨路東海道御供被ニ仰付ニ候、同月廿七日当り之通御道中川々御船割御用被ニ仰付ニ候

一、同年三月十五日御発駕被遊御供にて御園出立仕、御道中字根川佐渡川御船割御用相勤申候、并舞坂駅於御途中ニ御煙草入御手自頂戴仕候、同四月三日御参府被遊御供にて参着仕候

一、江戸詰中御番御供御使者等相勤申候

一、同四癸巳年当年御帰国東海道播磨路御供被ニ仰付ニ候

一、同年三月廿一日少将様御祝年ニ付御祈禱指上候為御祝儀ニ御目録金子貳百疋江戸於御館ニ頂戴仕候

一、同年四月廿一日江戸御発駕被遊御供にて出立仕、御道中六郷川天竜川佐渡川加古川御船割御用

相勤申候、并垂并駆於御途中ニ御煙草入御手自頂

戴仕候、同五月十日御掃城被遊御供ニて掃着仕候

一、同年七月廿日觀国院様御出棺御供被_レ仰付_二候

一、同年八月五日右御供相勤申候

一、同年御番御供相務申候

一、同五甲午年御番御供相勤申候、同三月御発駕被_レ

遊已後御留守御番相勤申候

一、同年五月寛彰院様御入興已後御供方之も罷出相

勤申候

私行年五十歳ニ罷成申候

已上

古家平左衛門

書判
印判

天保五甲午年十二月晦日

山脇兵作殿_江戸留守ニ候へ共御預当テ

御奉公之品書上

天保五甲午年十二月晦日迄之儀は前ニ書上申候

一、天保六乙未年

一、同七丙申年

一、同八丁酉年

右年数之内御番御供御留守御番等相勤申候、寛彰

院様御供方之も罷出相勤申候

一、同年十二月五日於_二御城ニ中奥詰被_レ仰付_二候御用

意被_二申渡_二候

一、同九戊戌年正月廿三日右改御礼干着ヲ以申上候

一、同十己亥年

右年数之内御番御供御代參御留守中梅ノ間大組御

番判改等相勤申候

私行年五十五歳ニ罷成申候

已上

古家平左衛門

書判
印判

天保十己亥年十二月廿九日

森川助左衛門殿

上嶋 彦兵衛殿

御奉公之品書上

天保十己亥年十二月廿九日迄之儀は前ニ書上申候

一、天保十一庚子年 一、同十二辛丑年

一、同十三壬寅年三月十九日御幕役 江戸表之出立

已後飯御幕役被_レ仰付_二御留守中右役相勤申候

一、同年四月九日 雄国院様御出棺之節御供被_二仰

付_二同廿五日右御供仕候

一、同十四癸卯年六月廿四日御帰城被遊候ニ付、仮御幕役ニて御殺生方召連三ッ石迄御迎罷越、同所より御供仕候

一、同年六月廿七日仮御幕役御免被成候

一、同年十一月十五日悴同姓清作義初て御目見申上候

一、弘化元甲辰年三月十八日和意谷閑谷御供被仰付候、同廿一日同所御参詣御供仕候

一、同年四月廿五日御参府御供被仰付候

一、同年五月十四日御代替御書替御黒印頂戴仕候

一、同年五月十五日御道中御宿割御用被仰付候

一、右年数之内御番御供御代参御留守中梅ノ間大組御番判改等相勤申候

一、同年八月十二日御先立仕候ニ付御目見被仰付候

一、同年八月十四日御宿割御用ニて御国出立仕、九月四日川崎駅於御本陣御道中御宿割御用相勤候ニ付、御目見被仰付骨折之段御意被成下候

一、同九月四日江戸ニ参着仕候日後御番御供相勤申候

私行年六十歳ニ罷成申候

已上

弘化元甲辰年十二月晦日

杉山五左衛門殿

石黒後藤兵衛殿

御奉公之品書上

弘化元甲辰年十二月晦日迄之儀は前ニ書上申候

一、弘化二乙巳年二月十六日御帰国御供分り被仰出、東海道播磨路御供被仰付候

一、同年四月廿八日江戸御発駕被遊、五月十七日御帰城被遊御供ニて帰着仕候

一、同年十二月廿八日悴同姓清作義前髪執申候

一、同三丙午年三月九日御留守中仮御膳奉行被仰付候

一、同四丁未年五月十二日御帰城被遊、同日仮御膳奉行御免被成候

一、同年六月廿五日当時御膳奉行助被仰付、同八月十三日御免被成候、右助役相勤候ニ付御目録金子五百疋頂戴仕候

一、嘉永元戊申年 一、同二己酉年

古家平左衛門

書判
印判

右年數之内御番御供御留守中梅ノ間大組御番判改

等相勤申候

私行年六十五歳ニ罷成申候

已上

古家平左衛門

書判
印判

嘉永二己酉年十二月晦日

岩田七郎兵衛殿

石黒後藤兵衛殿

御奉公之品書上

嘉永二己酉年十二月晦日迄之儀は前ニ書上申候

一、嘉永三庚戌年 一、同四辛亥年

一、同五壬子年 一、同六癸丑年

一、安政元甲寅年

右年數之内御番御供御留守中梅ノ間大組御番判改

等相勤申候

私行年七十歳罷成申候

已上

古家平左衛門

安政元甲寅年十二月晦日

上嶋彦兵衛殿

小崎半兵衛殿

御奉公之品書上

安政元甲寅年十二月晦日迄之儀は父同姓平左衛門

より其節書上申候

一、安政二乙卯年十一月十六日於御城ニ年来無懈

怠ニ相勤候ニ付、御切米拾俵御加増被ニ仰付ニ候旨御

用意被ニ申渡ニ候

一、同年十二月十五日右改御礼以三千着ニ申上候

一、同三丙辰年五月八日於ニ御評定所御加増被仰

付ニ候御黒印頂戴仕候

右年數之内御番御供御留守中梅ノ間大組御番判改

等相勤申候

一、同年十一月廿三日及老年ニ其上近來病氣ニテ

難ニ相勤ニ趣相聞候ニ付、中奥詰御免被ニ成、格別ニ

御小姓組ニ御入被ニ成、忤同姓清作ニ御番方名代

勤被ニ仰付ニ候、已後御番方相勤申候

一、同四丁巳年五月迄忤同姓清作御留守御番相勤申

候

右は父同姓平左衛門御奉公之品ニテ御座候

一、同年五月四日父同姓平左衛門義七十三歳ニテ病

死仕候

一、同年閏五月廿四日父平左衛門跡目御切米七拾俵
四人扶持之内六拾俵四人扶持被_レ下

御城代支配中小性被_レ仰付_二候旨、深谷助左衛門宅
ニテ同人申渡候

一、同年六月十五日継目之御礼以_二鳥目申上候

一、同五戊午年三月八日於_二御評定所_一御黒印頂戴仕
候

一、同六己未年御奉公之筋書上候品無_二御座_一候

私儀行年三十一歳ニ罷成申候

已上

古家清作

書判
印

安政六己未年十二月晦日

山田 弥太郎殿

生駒惣右衛門殿

御奉公之品書上

安政六己未年十二月晦日迄之儀は前ニ書上申候

一、万延元庚申年御奉公之品無_二御座_一候

一、文久元辛酉年右同断 一、同二壬戌年右同断

一、同三癸亥年八月十九日於_二御評定所_一御小性組

被_レ仰付_二候旨、伊木長門被_レ申渡_一候

一、同年同月廿一日此度江戸表_ニ被_レ遊_二御出馬_一候ニ
付、右御供用意次第早々出立上京可_レ致旨被_レ仰付_二
候由於_二之御丸_一雀部六左衛門申渡候

一、同年同月廿四日御国出立播磨路旅行仕、同月廿
九日京都ニ参着仕候

一、同年九月三日京都於_二御館_一御目見被_レ仰付_二候

一、同年十月十一日此度被_レ遊_二御帰国_一候ニ付御供
被_レ仰付、播磨路通_二御供被_レ仰付_一候

一、同年同月十三日京都被_レ遊_二御発駕_一御供ニテ出
立仕、同月廿日被_レ遊_二御帰城_一候ニ付御供ニテ帰着
仕候、右於_二御道中_一御自手御煙草入頂戴仕候、右
京都詰中御供御式台御番等相勤申候

一、同年十一月廿七日御小性組被_レ仰付_二候改御礼

以_二三千着_一申上候

一、元治元甲子年八月廿七日於_二内山下_一御訓練之節

頭附ニテ相勤申候

一、同年十一月四日防長為_二御追討_一来ル八日被_レ遊_二
御出馬_一候旨、御陣触被_レ仰付_二候、依_レ之御供被_レ
仰付_二候

一、同年同月七日明八日可_レ被_レ遊_二御出馬_一之処、少
々御不例ニ付御延引被_レ仰出_二候

已上

元治元甲子年十二月廿九日

杉山五左衛門殿

梶川 甚太郎殿

日置十左衛門殿

水野 助太夫殿

御奉公之品書上

元治元甲子年十二月廿九日迄之儀は前ニ書上申候

一、慶応元乙丑年正月元日御帰陣被遊候ニ付、御供ニテ帰陣仕候

一、同年二月朔日於ニ御城ニ御凱陣御規式有之御供仕候ニ付、於ニ御前ニ御通頂戴仕於ニ長冊爐裏ニ御酒御吸物等頂戴仕候

一、同二丙寅年二月廿四日於ニ御城ニ中奥詰被ニ仰付候旨、御用老被ニ申渡候

一、同年三月十五日右改御礼于肴ヲ以申上候

一、同年五月十六日酒折宮社地山王宮ニ御隠居様御代參相勤申候

一、同年五月廿四日組分被ニ仰出ニ広内権右衛門組ニ

一、同年十二月五日御不例ニ付御延引被ニ仰出置候

処、追々御陣方ニ被ニ為ニ在候ニ付御押被遊、来ル

八日可被遊ニ御出馬ニ旨被ニ仰出候、諸事先達テ御陣觸之通相心得候様被ニ仰出候

一、同年同月六日御代替御書替之御黒印於ニ御評定所ニ頂戴仕候

一、同年同月八日被遊ニ御出馬ニ御供ニテ御国出立

仕、翌九日備中川辺駅迄被遊ニ御越候処、御不例ニ付御滞留可被遊旨被ニ仰出、同十四日迄同駅ニ御滞留被遊候ニ付、御本陣御番相勤申候

一、同年同月十四日明十五日川辺駅御引揚、一之宮ニ御宿陣被遊候旨被ニ仰出候

一、同年同月十五日一之宮ニ被遊ニ御着陣候ニ付、御供ニテ着仕候

一、同年同月廿一日厚以ニ御趣意ニ鶴配分頂戴仕候

一、同年同月廿九日明元日可被遊ニ御帰陣ニ旨被ニ仰出候

右御宿陣中御式台御番等度々相勤申候

一、御小性組被ニ仰付候已後御番御供御留守御番等相勤申候

私儀行年三十六歳ニ罷成申候

御入被_レ成候

一、同年六月十三日御陣觸被_レ仰出、御供被_レ仰付候

一、同年十月二日御上京御供被_レ仰付、来_レ七日御発駕御供分共被_レ仰出候

一、同年十月七日御発駕被_レ遊御供ニテ御国出立仕、

同月十二日御京著被_レ遊候ニ付参着仕候

一、同年十二月九日於_レ京都_ニ金子式両、御手許より頂戴仕候

一、同年十二月十日京都御発駕被_レ遊御供ニテ出立仕、於_レ御道中_ニ御煙草入御手自頂戴仕、同月十五日御帰城被_レ遊候ニ付帰着仕候、右詰中御番御供度々相勤申候

一、同三丁卯年十一月三日御上京御供并御供分共被_レ仰出候、尤御発駕御日限之儀は追て可_レ被_レ仰出旨、喜多嶋勝右衛門より相移申候

一、同年同月十三日来_レ廿三日可_レ被_レ遊御発駕旨被_レ仰出候

一、同年同月廿一日明後廿三日御発駕可_レ被_レ遊旨被_レ仰出置候処、御不例ニ付御延引被_レ仰出候、尤少_シも御陣被_レ為_レ在候ハ、御推被_レ遊候て、早速御発駕可_レ被_レ遊旨被_レ仰出候

一、同年十二月廿七日御上京御延引被_レ仰出候ニ付、御供御免被_レ仰出候

一、明治元戊辰年三月二日中奥詰其儘ニテ片山路左衛門預半隊令士被_レ仰付、早々登坂致候様御用意被_レ申候由、広内権右衛門申渡候

一、同年三月六日頃片山路左衛門同道ニテ御足輕召連御国出立福嶋村より出船、同月八日大坂_ニ着船致し候処、直_ニ上京致候様との御事ニ付、同九日昼船ニテ伏見_ニ着船一泊仕、同十日京都御屋敷_ニ参着仕候

一、同年同月十五日信濃守様京都御屋敷_ニ御乗込被_レ遊、同日直_ニ御参内被_レ遊、御願之通御隠居御家督被_レ為_レ蒙_レ仰候ニ付、一統御館_ニ出仕、御帰館之節御門内_ニ御迎罷出申候

一、同年同月十九日来_レ廿一日大坂表_ニ御出輩ニ付、御奉供被_レ為_レ蒙_レ仰候ニ付、明廿日片山路左衛門預御足輕拾人召連御先立致候様被_レ仰付候

一、同年同月廿日京都御屋敷御門内_ニ同朝整列ニテ出立仕、同日枚方駅_ニ一泊仕、翌廿一日大坂天満御陣營_ニ着仕候

一、同年同月廿四日大坂御陣營_ニ御着陣被_レ遊候ニ付、

已後御參朝御供并御番御供度々相勤、其外御同所

於_二御馬場調練度々仕候

一、同年閏四月六日東京慎撫被_レ為_レ蒙_レ仰候ニ付御
供被_二仰付_一候

一、同年同月七日主上還幸被_レ遊候得共、御上奉供御
免ニ付、同月九日御上京被_レ遊候、然_ル処至て御入

少_ニて御上京被_レ遊候ニ付、片山路左衛門預り御足
輕御殘ニ相成居申候処、同月廿八日上京致候様被_二

仰付_一候ニ付、翌廿九日朝御足輕召連出立仕、同日
枚方駅一泊仕、翌五月朔日京都御屋敷へ着仕、已
後御番御供度々相勤申候

一、同年五月十九日京都於_二御館ニ大組被_二仰付_一、御城
代浮組へ御入被_レ成、其儘半隊司令士ニ被_レ差置詰
中安東勇馬へ附屬被_二仰付_一候

一、同年六月九日去_ル廿九日於_二聖護院村調練罷出、
相濟罷歸於_二御長屋ニ隊中銃掃除仕候節、込銃有_レ之
不_レ計相免_シ候段、全私共調方行届不_レ申候、甚以
奉_ニ恐入_一候、依_レ之遠慮口上書差出申候処、其儀ニ
及不_レ申由、安東勇馬より相移申候

一、同年同月十六日新流教授役被_二仰付_一候旨、安東
勇馬より申來候由、下濃平治右衛門より相移申候

已後調練場御稽古場ニ日々出勤仕候

一、同年七月廿二日御足輕召連近々御國へ御帰被_レ
成候由被_二仰出_一候ニ付、同月廿四日京都出立御噂
申候処、勝手次第被_二仰出_一候

一、同年同月廿三日近々御國表へ御帰被_レ成候ニ付、
於_二御館ニ御目見被_二仰付_一候

一、同年同月廿四日御足輕召連京都出立山崎路播磨
路旅行御噂申上置候処、都合も御座候ニ付途中よ
り船路仕、同月廿七日御國へ帰着仕候

一、同年八月八日於_二御城ニ第二大隊半隊令官被_二仰
付_一候旨御用意被_二申渡_一候

一、同年同月十日近々御出兵之御沙汰有_レ之候へ、
急速出張可_レ被_二仰付_一候間、此旨相心得置候様御用
老被_レ申候由、弁事御役所より申來候旨、丹羽次郎
右衛門より相移申候

一、同年同月廿二日朝廷御模様も有_レ之候ニ付、西京
へ出張被_二仰付_一候

一、同年同月廿五日近々出立ニ付於_二御評定所御用
意逢被_レ申候

一、同年同月廿八日小隊長糟谷助右衛門義不快ニ付、
隊中召連榎馬場整理にて出立、福嶋村より乗船仕、

九月二日大坂安治川橋え着船仕、直に揚陸天満御屋敷え着仕候

一、同年九月三日隊中え御渡之旋條統約京都既ニ御引替ニ相成試発為致申候

一、同年同月四日天満御屋敷出立、夜船にて翌五日朝伏見え着船一泊仕候

一、同年同月六日伏見出立竹田海道より西京御屋敷へ着仕、即刻下立売七本松浄円寺え宿陣仕候、同夕明後八日東京え出張被ニ仰付ニ候旨、池田兵庫被ニ申渡ニ候

一、同年同月七日明八日東京へ出立ニ付御目見被ニ仰付ニ候

一、同年同月八日西京御屋敷へ整列、其節石原半八郎小隊令官助被ニ仰付ニ伊勢路東海道旅行仕候

一、同年同月廿五日藤沢駅にて隊中井上富喜次義致ニ不慮之儀、逃去申候ニ付、為探索ニ半隊召連石原半八郎同所へ相残り候ニ付、残半隊召連同月廿七日東京前御屋敷へ着仕候

道中宿々斥候夜巡邏交番相勤申候

一、同年十月二日今般賊徒水戸表え廻候ニ付、右応接神速出張可有之旨御達ニ付滝川左近申渡即刻

整列御屋敷進軍、同月六日常州府中へ宿陣仕候処、水戸候より御酒被下配当頂戴仕候

一、同年同月七日水戸表奸賊共追々敗走、最早鎮定ニ相成候ニ付神速引揚掃府候様御達ニ付滝川左近申渡、同月十日東京御屋敷え帰陣仕候、右道中斥候後衛夜巡邏相勤申候、已来練兵所にて日々訓練仕、且御参朝御供并急速共交番にて相勤候様被ニ仰付ニ候

一、同年同月廿日過日水戸表より帰陣仕候ニ付、御目見被ニ仰付ニ候

一、同年同月晦日箱館表え出兵、来月三日品川より乗船可有之旨被ニ仰出ニ候得共、度々之出兵御難洪之廉被ニ仰立ニ候処、不レ得レ止御事ニ付一同度々之進退気毒ニ被ニ思召ニ候得共出張被ニ仰付ニ候、御情実篤と勘弁致為ニ御国家ニ忠勤相遂候様、御趣意被ニ仰出ニ候

一、同年十一月二日箱館出張ニ付、御目見被ニ仰付ニ候

一、同年同月三日御屋敷進軍高輪え宿陣仕、同月七日英船エリフに乗船、同日横浜沖え碇泊仕候

一、同年同月八日明九日出帆之処船中手狭ニ付揚陸

可_レ致旨相移候ニ付、神奈川駅_ニ揚陸一泊仕候

一、同年同月九日早丸と申船_ニ乗込、同月十日発船、

同月十三日奥州南部領山田湊_ニ着船揚陸宿陣仕候

一、同年同月十五日山田湊進軍、同月廿六日同領野

辺地湊_ニ着陣仕候、右道中斥候後衛番兵巡邏相勤

申候

一、同年同月晦日御達有_レ之野辺地御警衛被_レ仰付一

候ニ付、同所_ニ宿陣仕候

一、同年十二月八日寒天厳烈之御宿陣中惨苦之至ニ

付、為_レ慰勞ニ生牛一疋一同へ會議所より被_レ下候ニ

付配当頂戴仕候

一、同年同月十四日南部藩より御酒肴被_レ下配当頂

戴仕候

一、明治二己巳年正月元日南部藩より御鳥被_レ下配

当頂戴仕候

一、同年二月朔日清水谷殿より為_レ進撃用、紺足袋吉

足被_レ下頂戴仕候

一、同年同月晦日御直筆箱館出張一同_ニ奮冬歌も

奮励出祖尔采音信相從動靜如_レ件、誠ニ苦心罷在仄

に伝聞候得は東洋何れも無_レ恙頃日ハ青森在陣之

由先以致_ニ安心候、隔絶之辺陬殊ニ沍寒之難苦遙

察大義ニ存候、依_レ之今般為_レ慰勞酒肴差遣候、折角自愛何も無_レ屈撓ニ成功速ニ奏_ニ凱歌候様ニと思ひ候

右滝川左近宿陣所ニて拝見仕候

一、同年四月七日迄在陣中度々御酒肴頂戴仕候、晝

夜交番ニて番兵所巡邏相勤申候

一、同年同月八日野辺地進軍、同月九日津輕領大野

村_ニ着陣仕候

備州隊長

一、今般賊徒追討ニ就ては皇威隆替ニ関せり、諸長

官自から励まし宜しく之を勉むべき事

総 督

右滝川左近宿陣所ニて拝見仕候

一、同年同月十一日渡海被_レ仰付候ニ付、大野村整

列ニて青盛_ニ進軍、直ニ英船ヤンシイ_ニ乗船、同

月十二日松前領江差湊_ニ着船揚陸宿陣仕候、晝夜

巡邏相勤申候

一、同年同月十六日安野呂口へ進軍候様御達有_レ之、

同晚同所_ニ着陣仕、番兵巡邏交番ニて相勤申候

一、同年同月廿一日落部越山道を切り拓き可_レ申旨ニ

付、郷夫裁判として隊中四人つゝ交番ニて遣申候

一、同年同月廿三日石原半八郎半隊召連道拓き斥候進軍仕、同月廿五日残り半隊召連進軍仕、同日より小隊にて日々相進申候

一、同年五月三日道拓き出来ニ付、明四日落部村^ニ正兵にて進軍候様御達有^レ之候

右道拓き中斥候番兵郷夫裁判日々相勤申候

一、同年同月四日曉^時三字湯本^ニ各藩整列にて落部村^ニ進軍十字着陣仕、所々探索仕候処、賊徒不^レ残モロランへ落去居申候ニ付、同所へ宿陣斥候番兵巡邏、各藩交番にて相勤申候

一、同年同月七日二股口応接進軍候様御達有^レ之、直ニ整列にて操出シ、同月八日大野村^ニ着陣仕、同所にて各藩交番にて昼夜番兵巡邏相勤申候

一、同年同月十日明十一日未明迄ニ七重村迄進軍候様御達有^レ之候

一、同年同月十一日曉三字進軍七重村へ着陣仕、海陸大戦争にて十字進撃候様御達有^レ之、直ニ操出シ大川より石川通五稜郭へ相進、候処、賊徒より大砲数多擲掛申内、最早日暮ニ及び各藩引揚候様御達有^レ之、神山村ニ軒家ニ屯集仕居申候、同所より西手へ手配陣取候様御達有^レ之候ニ付、同月十三日

迄昼夜相守申候

一、同年同月十四日早天御達有^レ之、同所より七八丁兩手手薄ニ付転陣、昼夜相守申候

一、同年同月十八日賊徒降伏致候ニ付、持場引揚候様御達有^レ之、翌十九日鍛冶村^ニ引揚宿陣仕候

一、同年同月廿日御達有^レ之、有川村^ニ引揚居申候処、尚亦御達有^レ之、直ニ箱館へ繰込宿陣仕候

一、同年同月廿一日同所大森浜にて海陸軍戦死之者招魂祭被^ニ取行候ニ付龍越調練仕候、清水公殿御自祭ニ御座候

一、同年同月同日各藩支度調次第東京迄兵隊引揚候様御達有^レ之候

一、同年同月廿四日迄同所^ニ着陣仕、降伏人番兵交番にて相勤申候

一、同年同月同日

備前兵隊^ニ

昨年来長々之在陣辺陲僻地山海超越辛苦常ナラス、殊ニ去月進軍後日夜奮戦激闘宜逐ニ成功ニ候段、全忠勇之至、実不^レ堪^ニ感佩ニ候、此旨速ニ可^レ及^ニ奏聞ニ候也

総督殿 御判

右滝川左近宿陣所にて拝見仕候

一、同年同月廿五日御直筆

永々屯在之処、頃日諸口之官軍進撃ニ相成、就て
 一同ニも渡海分配攻進之趣報知有レ之、最早各地
 勇戦碎賊必然之義と致ニ想察ニ苦勞之至思ひ候、弥
 以一和奮励我武維揚速ニ峻役捷報不レ堪ニ跋望、先
 は軍勞為ニ慰問ニ滝川久三郎差遣シ候間、尚同人よ
 り可レ申事

右滝川左近宿陣所にて拝見仕候

一、同年同月同日英船富士山ニ乗込、同所沖ニ碇泊
 仕候処、多人數ニ付揚陸候様御達有レ之、同月廿七
 日揚陸宿陣仕候

一、同年六月八日モロランより降伏人着、願成寺勝
 山屋敷ニケ所へ被ニ差置候ニ付、親兵隊より請取、
 生国人名格分等取調取締局へ書出シ、以来交番ニ
 て昼夜守衛仕候

一、同年同月十日降伏人在住隊ニ引渡申候

一、同年同月十四日此度戦死之招魂社拓地ニ付、貴
 賊ニ不レ拘手伝与力之志可レ致との御事ニ付、同月
 廿二日隊中召連手伝仕、御酒肴被レ下頂戴仕候

一、同年同月廿五日備州兵隊此度降伏人為ニ守衛、

戊辰丸ニ乗組東京ニ御返シ被レ成候様御達有レ之候
 一、同年同月廿八日戊辰丸ニ乗船降伏人受取直ニ出
 帆、七月三日品川沖ニ碇泊、同月四日揚陸、同所
 願行寺へ連越番兵仕候

一、同年七月五日降伏人守衛芝山内にて御親兵隊ニ
 引渡、重罪四人糺問所へ引渡申候、直ニ練兵所へ
 凱陣仕候

一、同年同月六日御目見被レ仰付御趣意

凱陣一同ニ

箱館征討中孰も勉勵於ニ所々ニ勇戦格闘不ニ容易功
 勞之趣、全忠奮之働ヲ以武威ヲ北門ニ輝候段、今
 日之満足不レ過レ之候、殊ニ嚴寒より炎暑ニ向ひ始
 終無ニ屈撓ニ奇特之至、今般無滞致ニ帰陣ニ目出度
 事候、聊為ニ慰勞ニ酒肴差遣候、無ニ心置ニ給呉候様
 思ひ候

右御広間ニおゐて一同御酒肴頂戴仕候

一、知事宮様より御酒肴被レ下配当頂戴仕候

一、今般箱館平定凱陣之趣被レ聞食、就てハ永々出張
 尽力深く感實思召、依レ之速ニ帰国休兵いたすべく
 旨御沙汰候事

但、軍勞為ニ慰撫ニ不ニ取敢ニ目録之通下賜候事

七月

行政官

右之通被_二仰出_一候条申達候事

七月

軍務官

右御酒肴料被_レ下一同配当頂戴仕候

一、同年同月十日近々御国表へ御返ニ付、御目見被_二仰付_一候

一、同年同月十三日御屋敷繰出東海道伊勢路旅行仕

八月朔日西京御屋敷へ新少将様伺_二御機嫌_一參上仕候

被_二仰渡_一

昨年来箱館出張長々在陣僻地艱難苦勞之事ニ思召候、此度首尾能凱戦御安堵思召候、依_レ之為_二御慰勞_一御冒録之通被_レ下候、御目見被_二仰付_一候得とも、御不例中ニ付申渡候様被_二仰付_一候、此旨孰もえも可_二申聞_一との御事ニ候

右池田頼負被_二申渡_一候

右御酒肴料被_レ下一同配当頂戴仕候

一、同年八月朔日西京出立、同月六日岡山へ帰陣仕、直ニ之御丸ニて御隠居様御目見被_二仰付_一御懇之御意被_二成下_一候
御趣意

永々在陣殊ニ絶海尽力国光益相顕候段、全一同之忠義貫徹と思ひ候、今般無滞凱陣深く満足之事ニ候

一、同年同月同日教授所ニおゐて御酒肴頂戴仕候

一、昨年来出陣中被_二下置_一御酒肴度々頂戴仕候

一、同二己巳年三月十七日職制御改革ニ付級規等則被_二仰出_一、第二大隊八番小队半隊令官其儘ニて六等席被_二仰付_一候

一、同年九月三日一番小队士被_二仰付_一候

一、同年同月十三日御藩制御改革ニ付、従来御切米

六拾俵四人御扶持被_レ下候処、尔来現米五拾四俵被_レ下候

一、同年十月廿一日今度御藩制御改革ニ付、等級尚

又御改定被_二仰出_一六級被_二仰付_一候

一、同年十二月五日下方熊男支配被_二仰付_一候
私儀行年四十一歳ニ罷成申候

已上

古家清作

書判
印判

明治二己巳年十二月晦日

下方熊男殿

明治二己巳年十二月晦日迄之儀其節書上申候

已上

古家清作

書判
印判

明治三庚午十二月廿九日

伊庭番男殿

水野園雄殿

一、明治三庚午二月十八日於政事堂蝦夷地流賊追討之節、自烈寒至炎暑、喉ヲ経奔ヲ關キ頗艱難、其後戦地へも相臨軍勞大儀思召候、依之為其賞、

五級被仰付、棒輸入御短刀金式拾兩賜候事

一、同年四月十七日於御後園為御慰勞典御意被成下、御酒肴頂戴并御庭拜見被仰付候

一、同年五月七日於三兵団箱館凱^{（剣カ）}之面々^{（カ）}相摸

拜見被仰付候

一、同年九月廿三日五級以上將校士官之心得ヲ以、

兵学館^{（カ）}之仏式為^{（カ）}練練^{（カ）}出頭被仰出、同月十日より

御規則之通出頭仕候

一、同年閏十月朔日五級已上御用之儀ニて於政庁

ニ今般尚又御藩制御改革ニ付、現石拾七石被下

三列^{（カ）}之御入被成候、御直被仰渡候

一、同年同月十日旧五級以上兵学館遊撃軍と御唱

被仰出候

一、同年十二月十日遊撃軍第一遊撃軍と御唱替被

仰出候

私儀行年四拾貳歳ニ罷成申候